

九州支部の紹介

九州支部は、九州（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県）、沖縄県在住の日本土壌肥料学会会員で構成されている。九州支部では5月と8月に二度の支部研究発表会を開催している。このうち5月の研究発表会は九州支部主催で、九州大、佐賀大、宮崎大、鹿児島大の回り持ちで、8月のものは九州農業試験研究機関協議会との共催で各県農業試験場の回り持ちで開催されている。九州支部では、独自に支部賞を設け、九州の土壌肥料研究に貢献のあった研究者・技術者の表彰を行っている。また支部活動は支部のホームページ（http://www.geocities.jp/kyushu_sspn_hp/）において逐次公開されている。

九州沖縄地域の土地面積は日本の12%、農耕地面積は13%を占める。日本の最南部であり総じて温暖な地域であるが、南北およそ1500 kmの範囲に広がっており、農耕地の標高は50 m以下から600 mにおよんでいる。その結果、年平均気温は、九州北部や中央山地部では15℃程度、中部では15～16℃、南部では17℃程度、沖縄では17℃以上と、かなりの差がある。

この地域の農耕地面積は、約75.6万 haである。分布する土壌は約25%が灰色低地土、22%がクロボク土であり、そのほかグライ土、褐色森林土、黄色土、赤色土、暗赤色土などが分布する。地質や気候を反映して、他地域と比較すると、クロボク土と黄色土、赤色土などの分布が広いのが特徴である。



全国シェアの高い特色ある作物としては、コムギや二条大麦、ビニールハウスで栽培されるイチゴ、ピーマン、スイカ、トマト、コネギなどの園芸作物やサトイモ、バレイショ、そしてマンゴー、パイナップル、パパイヤ、パッションフルーツなどがある。この地域の約54%は水田であり、コメはいうまでもなく基幹作物であるが、近年8月下旬の高温のため、白未熟粒の多発が問題になっている。この他、宮崎、

鹿児島両県は日本有数の畜産基地となっている。

このような特性を反映して、九州支部会においては、畜産廃棄物の有効利用技術やそれによる化学肥料削減技術、特色ある作物の肥培管理に関する研究発表が行われている。

